

# 世界に広がるネットワーク を利用した人材派遣

## 外国人技術者の派遣ビジネス

少子化、理工系離れによって技術者数が不足する日本。  
今後は、商品市場のグローバル化を追うように、労働市場のグローバル化も進んでいくだろう。  
外国人従業員が隣の席に座る日は、意外と近いかもしれない。



外国人従業員が明日、隣の席に来るかもしれない。近年、外国人エンジニアを、国内での開発要員として迎え入れるケースが増えている。10年前に技術者のビザで来日した外国人は年4000人程度だったが、2007年には1万人を突破。その多くは東南アジア、中国、インドの技術者である。

理由として、日本の少子化による若年就労人口の減少、学生の理工系離れによるエンジニア数の減少が挙げられる。総務省の発表によれば、2009年の15-24歳までの労働人口は573万人。団塊世代が20代を迎えた1968年では約1119万人であるから、若年就労人口はおよそ半分にまで減少しているといえる。さらに、理工系学生の全大学生に占める

比率は、1985年では23.3%であるが、96年をピークに減り始め08年では19.6%まで低下している（中小企業白書2009年版）。

つまりエンジニア数の不足は一時的な現象ではなく、今後も続くと予測される。質の高い人材を雇用するためには、国籍にこだわらず広く世界から適切な人材を集めることが必要な時代になったのである。

日本ジュロン・エンジニアリング株式会社（JJEL）は、IHI海外関連会社であるジュロンエンジニアングリミテッド（JEL・本社シンガポール）の日本における拠点として、1979年に設立。日本のお客さまの窓口として、日本企業の海外プラント建設をサポートすべく日々活動を行っている。

加えて 1991 年からは、外国人エンジニア派遣および紹介事業を開始した。これはお客さまから、海外プロジェクトを人材面でサポートしてほしいとの依頼を受けたことが発端である。

その後 20 年近くにわたり、JJEL の外国人エンジニア派遣事業は高い評価を得てきた。それは優秀な人材を、ジュロングループのもつ幅広いネットワークから発掘し、紹介できたことが大きい。シンガポール本社を筆頭に 14 の子会社と 16 の関連企業を有するジュロングループの強みといえる。また、総合エンジニアリング企業としてプラント建設実務にも豊富な知識を有しているため、お客さまの目的に最も合う人材を選択し、推薦できる点も特長として挙げられるだろう。

JJEL では、このようにお客さまの要望を基にリクルートを行っているため、一般的な登録型派遣ではなく、オーダーメイド型派遣と銘打っている。

しかし、20 年間で延べ 100 名を超える実績を達成できたのは、お客さまの要望にこたえるだけではなく、異国の地で働くエンジニア達に親身に寄り添い、サポートしてきたからでもある。

JJEL では、ビザの受給はもとより、医療受診、銀行口座の開設、宗教食の手配、休暇帰国、お子さんの就学問題、果てはゴミの出し方まで細かくサポートし、常にエンジニアが業務に専念できるよう、細心の注意を払っている。

また、お客さまの社風や日本のビジネスルールを一日も早く理解できるよう、定期的な面談を行っている。加えて、日々突発的な疑問点がでた場合も、電話やメールにて即座に対応している。

プロジェクトの終結後、ほとんどのエンジニアが母国へ帰国し、新しい勤務先で素晴らしい地位についている。また少数ではあるが、日本語をマスターし、定年まで日本で働くことを選ぶエンジニアもいる。彼らとは現在も親密な関係が続いている。

素顔のエンジニアは、文化の違いもあり興味深い。例えばインド人は、外ではご主人が主導権をもっているが、家の中では奥様が強い場合が多い。当社とエンジニアの間で誤解が生じ、やむを得ず奥様に相談したことがある。奥様は「主人が決めること。ただ誤解があったとの説明はお伝えする」と控えめな返事をされた。しかしその翌日、エンジ



ニアからすべてを了承する旨の連絡が入った。行き違いによって数週間交渉を要していた問題が、たった一晩で解決してしまい、奥様の実力に驚かされた次第である。

インドでは親が決めた結婚が一般的で、離婚もまざらないとか。一生連れ添う伴侶の助言は強い力をもつのだろう。そもそも異国までついて来てくれた奥様を大事にしないと、明日からの食事が貧しいものになるからかもしれないが…。宗教食の問題があり、簡単に外食はできないのである。

日本人にとって、外国人を同僚として迎え入れる、ということにはやはりハードルがあると思われる。しかし優秀で、経験豊富なエンジニアに、即戦力として働いてもらえるということは、企業にとって替え難いメリットである。

お客さまによっては、技術力のほかに、社内の活性化、若手社員育成効果も期待して採用している。隣の席に優秀な外国人エンジニアが座ることは、若手社員にとって貴重な勉強の場であり、国内にしながら国際ビジネスの経験を積む場となり得るからである。

これからの時代、年々厳しくなる国際競争を勝ち抜くためには、外国人の雇用を避けて通ることはできない。日本企業の海外事業のパートナーとして、JJEL と、JJEL の外国人エンジニアが貢献できると信じている。

問い合わせ先

日本ジュロン・エンジニアリング株式会社

人材事業部

電話 (03) 5423 - 3911

URL : [www.jjel.co.jp/](http://www.jjel.co.jp/)